

# 防衛省・自衛隊が 取り組むべき

## 諸課題について

防衛大臣 岩屋 毅



防衛大臣の岩屋でございます。偕行社の皆様には、平素より防衛省・自衛隊に対し一方ならぬご支援・ご協力を賜っておりますこと、厚くお礼申し上げます。

我が国を取り巻く安全保障環境は、従前想定していたよりも格段に速いスピードで厳しさと不確実性を増しています。

朝鮮半島をめぐることは、昨年、米朝首脳会談や南北首脳会談が行われましたが、現時点においても、北朝鮮が我が国を射程に収める数百発の弾道ミサイルを保有し、実戦配備している状況に変化はありません。さらに、北朝鮮は、東シナ海などにおいて、ますます手法を巧妙化させつつ、「瀬取り」を継続しております。また、中国は、軍事力を広範かつ急

速に強化しつつ、我が国周辺海空域における活動を活発化させています。尖閣諸島周辺においては、中国の公船が我が国領海への侵入を繰り返しているほか、海軍艦艇が活動を恒常化させております。一昨年以降、軍用機の西太平洋への進出も急増してまいりました。さらに、世界全体を見渡せば、テロリズムの脅威や大量破壊兵器の拡散に加え、サイバーや宇宙空間などの新たな領域における脅威が顕在化しています。

また、近年、自衛隊による救援が求められる大きな自然災害が毎年のように発生しております。

このような環境の下、そして国民の命と平和な暮らしを守りぬぐため、私は、防衛大臣として、以下の施策を推進していく考えです。

### 我が国自身の努力

厳しい安全保障環境の下において、国民の生命と平和な暮らしを守りぬぐために、まずは我が国自らの努力による防衛力の強化を進めます。

現在の安全保障環境においては、宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域での優位性確保が死活的に重要となっております。昨年末に策定された新たな「防衛計画の大綱」では、専守防衛を前提としながら、真に実効的な防衛力として、宇宙・サイバー・電磁波

力を融合させた、「多次元統合防衛力」を構築することといたしました。

この取組は決して容易なものではなく、防衛省・自衛隊にとつての新たな挑戦であります。進取・変革の精神で、私自身が先頭に立って、取り組んでいく決意です。

また、各種災害に迅速かつ適切に対応できる態勢を整えるべく、駐屯地の機能維持・強化や救援活動に必要な資機材の整備なども進めてまいります。

さらには、全ての自衛隊員が高い士気を維持し自らの能力を十分に発揮し続けられるよう、生活・勤務環境の改善を図るとともに、栄典・礼遇に関する施策、給与面の改善といった処遇の向上、再就職支援の充実も図ってまいります。

### 日米同盟の強化

次に、我が国の安全保障の基軸である日米同盟を一層強化してまいります。

本年1月、私は訪米し、シヤナハン米国防長官代行と日米同盟の強化について議論し、今後の日米協力の方向性について一致することができました。これを踏まえ、様々な分野において両国の協力を進展させ、日米同盟の抑止力・対処力の一層の強化を図ってまいります。

同時に、地元の基地負担を軽減していく必要があります。特に沖縄については、負担軽減を目に見える形で実現

していかねばなりません。引き続き、全力で取り組むとともに、沖縄の皆様にも丁寧説明してまいります。

### 各国との安全保障協力の強化

日米同盟の強化に加え、各国との安全保障協力の推進も重要です。私自身、昨年10月の防衛大臣就任直後にASEAN諸国をはじめとする各国の国防大臣との意見交換を行いました。本年も既に、フランスにおいて日仏「2+2」などを行ったほか、東京において日豪防衛相会談を実施したところです。

引き続き、自由で開かれたインド太平洋の維持・強化のため、各国との防衛協力・交流を一層推進していく考えです。

### 最後に

以上申し述べましたように、防衛省・自衛隊が取り組むべき課題は数多く存在しています。私は、防衛大臣として、25万人の隊員とともに、国民の命と平和な暮らしを守り抜くために、これらの課題に率先して取り組む決意です。言うまでもなく、これらの取組を着実に進めていくには、国民の皆様幅広いご理解とご協力が不可欠です。長年、国防について国民の理解促進に取り組んでこられた偕行社の皆様におかれましては、今後なお一層のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。